

マラカイボ港での油による船体汚損について

マラカイボ湖は、約 11,000 の油井と約 45,000km のパイプラインを持つベネズエラの原油の重要な積出港であり、約 150 万バレルの原油が Puerto Miranda、La Salina および Bajo Grande のターミナルから輸出されている。油による船体汚損は湖内ではこれまでもよく見られたが、ここ数ヶ月この問題は拡大しつつある。これまではこうした事故は国営企業である PDVSA によって運営されているターミナルに着積する船に限られていたが、Bolivariana de Puertos, S.A. (Bolipuertos)によって管理されている商業港である Maracaibo 港でも見られるようになってきている。

近年、湖内では油井装置の運転に伴う微量の油流出と思われる油濁の問題が繰り返し発生している。La Salina など PDVSA によって管理されているターミナルでは、油井装置の運転に伴い頻出する油流出による船体汚損の問題が定期的に発生している。年々、湖の多くの場所で油がたまり、水流、豪雨、夏の間ウキクサの発生などの季節性の現象によって大きな油の塊となり、Maracaibo 港などの油井施設のない区域にまで広がっている。残念ながら、こうした油の流出源についての公式な報告はない状況である。

油による汚損が原油ターミナルで発生した場合、PDVSA は清掃の手配と費用を負担しているが、商業港で発生した場合には PDVSA や公営港の管理局である Bolipuertos から同様の同意を得ることは容易ではない。

PDVSA、船主や用船者の誰が船体清掃を行うかにかかわらず、重要なことは湖内での船体清掃は許可されていないため、Guaranao Port から Punto Fijo までの間の湖外の錨地にて行われている点である。PDVSA が書面で清掃に同意したとしても、順番待ちしている船舶の数次第であり直ちに清掃作業が行われるわけではない点にも留意が必要である。これによって生じた遅延について (PDVSA へ) 求償することは容易ではない。

以上より、Maracaibo 港に寄港する組合員には、直ちに代理店およびコレスポンデントへ連絡し協力を得るとともに、必要であれば自身で船体清掃の手配をすることを備船者と話し合うことを推奨する。

もし、協力や追加情報が必要であれば、下記宛にお気軽にご連絡願う。

GLOBALPANDI, S.A.

Phones: +58-242-3641801/3641026/3641798

Fax: +58-242-3640998

E-mail: mail@globalpandi.com

Webpage: www.globalpandi.com

AOH: +58-412-4210036

Contact: Mr. José Alfredo Sabatino Pizzolante